



野菜づくりを楽しんでいます

いずも定住大使 中尾 繁さん(稗原町)

「仕事を辞めたら、出雲に帰るぞ」と以前から考えていました。生まれてから高校を卒業するまで過ごした出雲での18年間で、私の体にふるさとの生活や環境のリズムをしっかりと刻みこんでいたからです。北海道で45年も暮らしましたが、私の体内時計のリズムにぴったりと合うことはありませんでした。

市役所などで相談に乗ってもらい、平成17年8月にUターンして、はや2年が経とうとしています。今は、無農薬の野菜づくりに毎日精を出しています。食の安全に対する不安から、野菜ぐらいは自分で作りたと思っていたからです。

自然に囲まれた家の周りは、鳥がさえずり、虫が舞い、星空もきれいな所で、妻ともども満足しています。

“ふるさは遠きにありておもうもの”といいますが、実際に住んでみても“やっぱふるさはえとこだわ”と実感しています。

私たちの住む出雲市は、きれいな海や川、緑豊かな山々など、自然に恵まれたとても住みやすいまちです。市では、定住を促進するために、4月から定住支援センターを開設して、住みよいまち「日本のふるさと出雲」を全国に向けてPRしています。今回は、その取り組みについてお知らせします。

強化 定住の受け入れ体制を

出雲市の人口(6月末現在)は、14万8521人で、平成17年3月の合併からほぼ横ばいで推移しています。少子・高齢化が進む中、人口を増やしていくことは、今後の市の発展に大きく影響します。戦後の高度経済成長時代を支えてきた団塊世代の大量退職が始まりました。その中には、都会での生活から離れ、退職後は故郷に帰ってのんびり暮らしたいと思っている人も多いのではないのでしょうか。

市では、団塊の世代をはじめとする新出雲市民の受け入れ体制を強化するために、4月から定住支援センターを開設しました。場所は、市役所本庁2階です。

いずも定住大使の委嘱や、出身者会への情報提供などを積極的にを行い、全国から出雲人を募っています。

出雲での暮らしの不安を解消します

これまで住み慣れた場所を離れて、出雲での暮らしを決意するには、それなりの判断材料が必要はなはず。センターでは、「希望にあつた家や就職先はあるだろうか」「子どもの学校のことや市のいろいろな制度について知りたい」といった、住まいや職業のほか、教育や福祉、文化などについても紹介しています。

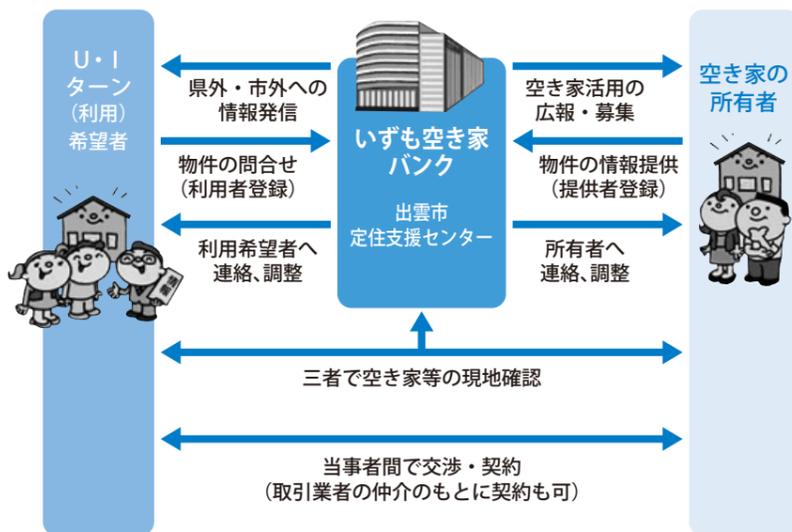
あなたの知り合いに出雲市への定住を考えている人がいたら、気軽に定住支援センターを紹介してください。

U・Iターン
歓迎

出雲への定住を応援

相談は定住支援センターまで
TEL 0853-21-6629
FAX 0853-21-6509
Eメール
teijyu@city.izumo.shimane.jp

いずも空き家バンクのしくみ



いずも空き家バンク

空き家・空き地の情報を提供しています。しくみは左表のとおりです。

募集

市内に空き家などをお持ちの方で、賃貸や売却をお考えの方は情報を提供してください。

●申込先/定住支援センター
※ホームページからも申し込みできます。



定住関連情報ホームページ

いずも定住大使の体験談、いずも空き家バンク情報、職業紹介など、定住に関する情報を掲載しています。
ホームページアドレス:
<http://www.teijyu-izumo.jp/>

田舎ぐらし体験の企画・調整

市外在住者を対象にした田舎ぐらし体験を実施したり、紹介したりして、定住促進を目指す地域の取り組みを支援しています。

ワンストップ相談窓口

定住希望者への住居や職業、教育、福祉、文化など、暮らしに必要な情報の紹介を総合的に行います。

定住支援センターの取り組み

いずも定住大使

出雲市へU・Iターンし、各方面で活躍されている5人に委嘱しました。その体験を生かして、出雲の魅力を広くPRしています。



西尾市長(写真右から3人目)といずも定住大使のみなさん(右から鳥屋原敏夫さん、村田實さん、中尾繁さん、松本弘さん、神田千俊さん)(5月11日 委嘱式)